

森の紙芝居部門 小学生の部 優秀賞 (JOMO カップ賞)

「森はどこまで」 作：ニコニコふたごチーム



森はどこまで



「パン、パン。」

森の近くで大きな音がしました。

(小鳥たち)「カータン大変よ。あなたのママが、大けがをしちゃったの。」  
小鳥さんたちの知らせにカータンは、びっくりしました。



(カータン) 「今日からぼくがママの分までエサを取ってくるぞ。」

(カータンのママ)「カータン、ゴメンネ。ママがああ線をこえてしまったから・・・。  
気をつけるのよ、ぜったいにああの線をこえては、ダメよ。」

(カータン) 「ああの線？」

(カータンのママ)「ああの線は、わたしたちの森とそうではない所の間にある  
線のことよ。行けば分かるはず。」

(カータン) 「わかった、約束する。」



カータンは、木の実をさがしにドンドン歩いていきました。そしてたくさんママへの  
おみやげを拾った後、ふと、ああの線のことを思い出しました。

(カータン) 「遠くからなら大丈夫だよな。」

そう思うと森とそうでない所のああの線をさがしました。

(カータン) 「あつた、あれた。そんなにこわそうじゃないのに、  
だけど帰ろっと。」



(カータン) 「今日もおみやげたくさんあるぞ。ポクってすごいなあ。」



(カータンのママ)「秋のかがりがしてきたわね。カータン毎日ありがとう。  
本当にママ助かるわ。あと少ししたら、ママよくなる  
からね。」

(カータン) 「大丈夫。ポクは、元気100倍カータンなんだから。  
いってきまーす。」

今日もおみやげをたくさんもったカータンは、またああの線を思い出しました。

(カータン) 「この前ここにああの線があつたんだっけ？ なんだか、  
もりが小さくなったような気がするな。」



(クータン) 「毎日がんばって取りすぎたかな？今日は、なかなか、木の実が集まらないぞ。」



(クータン) 「ママ、なんか木の実が見つからないよ、どうしたのかな」  
(クータンのママ) 「もう秋も深まってきたからね。だんだん、食物が減ってくるのよ。」  
(クータン) 「フーン。」  
クータンは、なにかいい所はないか寝ながら、考えました。



つぎの日クータンは、あの線の近くまで来ました。  
(クータン) 「あっ、たくさんあるぞ。」  
夢中になって、木の実をひろいました。そして、  
(クータン) 「あれっあの線てここだっけ。なんか変だな。」



次の日もあの場所に。  
(クータン) 「あれっ、あの木が切られてるぞ。  
やっぱり森が小さくなってるとんだ。」



(クータン) 「あれっ?。」



(クータン) 「あれ-----?」  
「なんで、森がどんどん小さくなってるとの~。」